

## 第4回 空港アクセス検討委員会概要

1 日 時：令和4年（2022年）2月8日（火）10:00～11:15

2 場 所：ホテル熊本テルサ たい樹

### 3 出席者

委員：加藤 一誠 慶應義塾大学商学部 教授  
円山 琢也 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授  
岩崎 司晃 九州産交バス(株) 代表取締役社長  
赤木 由美 九州旅客鉄道(株) 執行役員 熊本支社長  
新原 昇平 熊本国際空港(株) 代表取締役社長  
川畑 健二 熊本経済同友会 都市圏戦略委員長  
西村まりこ 熊本商工会議所 副会頭  
島添 哲也 (一社)日本旅行業協会 熊本地区委員長  
高橋 太朗 熊本県企画振興部長  
村上 義幸 熊本県土木部長  
井芹 和哉 熊本市都市建設局長  
オブザーバー：小原 勝 国土交通省九州運輸局鉄道部長  
府高 隆 熊本県観光戦略部政策審議監  
熊本県：小金丸交通政策・情報局長  
清田交通政策課長、猪原空港アクセス整備推進室長

### 4 議事の概要

- 県から、令和3年11月議会で表明した「ルートの追加検討」について説明後、委員から意見を聴取。（委員の発言は以下のとおり）
  - ※その他、報告事項として、「令和2年度調査結果（三里木ルート）の課題への対応状況」について、①財源確保に向けた取組み（国への要望等）や、②鉄道利用者数を増やす取組み（仙台空港アクセス鉄道の事例紹介等）について説明。
- 次回は、県から、ルートの追加調査の結果を説明し、それに対する意見や、空港アクセス整備の方向性について各委員から意見を聞く予定。（開催時期未定）

### 5 委員等の主な発言

#### 高橋委員（熊本県企画振興部長）

- ・ルートの追加調査については、引き続き、(独)鉄道・運輸機構に調査を委託しており、今年中には調査結果を報告したい。
- ・TSMC進出を受け、昨年11月に知事をトップとする「半導体産業集積強化推進本部」を設置し、具体的な課題に対応するため、5つの部会を設置した。
- ・このうち、「渋滞・交通アクセス対策部会」においては、更なる混雑が予想されるセミコンテクノパーク周辺の渋滞解消及び、交流人口の増加に対

応するための当該地域への交通アクセスの向上について検討を行っており、空港アクセス鉄道についても、この部会などとも連携して整理して参りたい。

#### **新原委員（熊本国際空港㈱ 代表取締役社長）**

- ・航空需要については、この年末年始には、コロナ禍前の9割まで回復したが、オミクロン株の流行により、現状は、かなり落ち込んでいる。今回の第6波が短期で収束し、3月以降需要が回復することを期待している。
- ・TSMCが進出することで、台湾との人的交流の他、物流が増加することが期待される。
- ・半導体関連の部品等は、精密機械であり、陸送よりも空輸が適しているという話を聞いているため、今後、熊本空港の貨物の輸送力を高めて、国際貨物の取扱い等の検討を進めていきたい。
- ・鉄道のルート検討についてはスピード感を持って対応していただき、早期に次の段階に進んでいただくことを期待している。

#### **赤木委員（九州旅客鉄道㈱ 執行役員 熊本支社長）**

- ・鉄道需要については、年末年始は8割程度まで回復したが、現在は、オミクロン株の流行により、5割以下まで減少している。
- ・TSMCが進出することで、交流人口・定住人口が増加し、地域に賑わいがもたらされるため、大変喜ばしい。
- ・空港アクセス鉄道のルートについては、空港利用者の利便性確保、建設コストといった経済性、県内全域の交通ネットワークの利便性向上といった総合的な判断により、決定すべき。
- ・ルートの調査・検討の過程において、我々鉄道事業者の知見が活かされる部分については、協力をしていきたい。

#### **岩崎委員（九州産交バス㈱ 代表取締役社長）**

- ・TSMCの進出により、今後、関連企業等の更なる集積が期待される。それに伴い、定住人口や交流人口の増加も期待される。
- ・バス交通の立場から見ると、TSMCの進出により、以前よりも周辺道路の渋滞対策という課題が大きくなると感じている。
- ・空港アクセス鉄道が整備された後も、並行してリムジンバスを運行するが定時性を確保するためには、渋滞対策として、自家用車から公共交通機関へシフトするための仕組みが必要になると考える。
- ・空港利用者の増加と、空港アクセス鉄道ができるまでの時間にタイムラグが生じる（間に合わない）と思うので、その間の空港利用者の利便性を確保するために、バス事業者として協力して取り組んで参りたい。

#### **島添委員（一社）日本旅行業協会 熊本地区委員長**

- ・私自身、仕事で熊本市内からグランメッセへ向かう際に空港リムジンバスを利用したが、積み残しを経験したこともあり、空港アクセス鉄道の重要性を感じている。

- ・コロナが収束した後は、人流が活発化し、台湾から熊本への観光客が増えることが期待されることから、空港アクセス鉄道が重要であると考えます。
- ・どのルートになっても、鉄道が整備されることで、空港から熊本市内や、阿蘇、大分等へのアクセスが向上し、九州の真ん中にある熊本空港がハブ空港の役割を果たすことも期待される。

#### 川畑委員（熊本経済同友会 都市圏戦略委員長）

- ・TSMCの進出により、前提条件が変わり、その影響を見定めるためにルートの追加検討を行うことについては賛同したい。
- ・幅広い観点から、最も効果的・効率的なルートを選定すべき。
- ・空港アクセス鉄道の整備により、空港と駅の結節が強化されることで、九州内の回遊性が飛躍的に高まる。それから、渋滞の緩和にも繋がる。是非、早期整備に向けて、検討を進めていただきたい。

#### 西村委員（熊本商工会議所副会頭）

- ・TSMC進出という大きな要因を踏まえ、総合的な視野で空港アクセス鉄道を考えることは重要。
- ・事務局から事例として紹介された仙台空港アクセス鉄道の美田園駅は、コロナ禍であっても利用者が減少していないことから、地域全体の発展が鉄道の需要に繋がるのだと思った。
- ・三里木ルートであれば、県民総合運動公園のアクセス改善も可能だが、それ以外のルートとなった場合には、県民総合運動公園のアクセスについても別途、検討していただく必要がある。

#### 村上委員（熊本県土木部長）

- ・県の「渋滞・交通アクセス対策部会」においては、TSMCの開業に向け、当面の対策を検討している。その後も、抜本的（長期的）な対策については引き続き検討する必要がある。
- ・道路整備などの交通計画を立案するため、概ね10年毎にパーソントリップ調査を実施しているが、令和4年の調査実施に向けて準備を進めている。これにより、現況を把握し、将来の予測を行うこととしている。
- ・空港アクセス鉄道についても、現況をしっかりと把握し、将来予測を行うことは必要と考える。

#### 井芹委員（熊本市都市建設局長）

- ・渋滞対策については、県と協力して取り組んでいきたい。
- ・TSMCの進出により、道路への影響以外にも、豊肥本線沿線の負荷等が考えられるため、その点についての検討も必要である。
- ・ルートの追加検討結果については、今年中に報告されるということだが、TSMCを含めて豊肥本線沿線への影響をどう考えるのか、今後の検討委員会の進め方も含めて、連携を深めていきたい。

#### 円山委員（熊本大学准教授）

- ・今回、ルートを再検討するという県の方針については、適切な判断であると考えている。
- ・要望が2つあり、1つ目は、3ルートの特長・デメリットが一目で分かるような比較表を作っていただきたいこと。事業費等の数字で表される項目以外についても各ルートの特徴について網羅的に整理し、県民をはじめとした関係者に提示していただくことが必要。
- ・私の考えでは、メリットとしては、三里木ルートが県民総合運動公園付近に中間駅を造れるということ、肥後大津ルートが相互直通運転の可能性が高いと考えられること、原水ルートがTSMCに近いことなど。一方、デメリットとして、三里木、原水ルートは相互直通運転がしにくいこと、肥後大津、原水ルートは中間駅が造れないことなどが考えられる。
- ・2つ目の要望が、現在単線である豊肥本線の輸送力を高める検討をしていただきたいこと。空港アクセス鉄道としてはもちろん、県民の日常的な利便性を向上させる効果もあることから、現状の単線からの改善を検討いただきたい。すぐに複線とすることは難しいかと思うが、例えば、すれ違いができる駅を増やすだけでも一定の効果が期待される。
- ・例えば、令和4年に実施予定のパーソントリップ調査のアンケートに、空港アクセス鉄道の利用意向等に関する質問を入れたり、アクセス鉄道と豊肥本線の輸送力増強を含めた都市交通マスタープランを検討する等、幅広い視点で考えていただきたい。

#### 小原オブザーバー（国土交通省九州運輸局鉄道部長）

- ・現在、各地で地域鉄道の維持が課題となっていることから、空港アクセス鉄道についても、整備後の維持のために、観光・ビジネス客だけでなく、日常において、どれだけの利用が見込めるのかについても調査した上で検討を進めるべき。

#### 府高オブザーバー（熊本県観光戦略部政策審議監）

- ・観光戦略部としては、TSMCの進出による周辺地域及び県内全域への観光経済面での効果や影響、コロナにより変化した行動パターンを検討して、より効果の高い観光誘客策につなげていきたいと考えており、そのことが、空港アクセス鉄道の需要の増加にも繋がるものと考えている。

#### 加藤委員長（慶應義塾大学商学部 教授）

- ・TSMCの進出により新たな居住者が増加すれば、観光需要の増加も期待できる。例えば、天草へのツアーを販売することで、天草エアラインの需要も増加し、県内全域の活性化が期待される。
- ・TSMCの進出により、しっかりと実需につなげることで、航空会社が熊本に路線を引きたいと思ってもらうことは非常に重要である。

#### 新原委員（熊本国際空港㈱ 代表取締役社長）

- ・熊本国際空港㈱としても、利用者や航空会社に「選ばれる空港」を目指している。県で検討いただいているTSMC中心の産業の活性化や、脱炭素の取組みが重要であるが、空港アクセスの整備も非常に重要な要素と考えているため、できるだけスピード感を持って検討を進めていただきたい。

#### 赤木委員（九州旅客鉄道㈱ 執行役員 熊本支社長）

- ・エアラインと新幹線は、ある意味競合、競争相手だが、パートナーシップを組むべきところでもある。
- ・熊本イン、鹿児島、福岡アウトといった観光コースも期待され、選択肢が広がることは地域が活性化することに繋がるため、特にインバウンドを含め熊本空港に就航する便が増えることは非常に歓迎する。
- ・全国的に人口が減少している中で、観光客をどのように取り込んでいくのかが課題であると考えており、航空会社と連携することで、JRにもメリットがあると考えている。

#### 西村委員（熊本商工会議所 副会頭）

- ・空港アクセス鉄道の整備については、10年程度要すると聞いているが、TSMCの進出は2年後に迫っているため、スケジュールを前倒しし、なるべく早く整備していただきたい。  
→（県）令和2年度の調査（三里木ルート）では、鉄道整備に8年を要するという調査結果であり、さらに環境アセス等の手続き等も必要となるが、工期の短縮については、今後も引き続き検討して参りたい。

#### 加藤委員長（慶應義塾大学商学部 教授）

- ・委員の皆様の見解をまとめると、TSMCの進出という外部環境の大きな変化を考慮すると、本委員会としても空港アクセス鉄道のルートに係る追加調査は必要である、ということかと思う。
- ・一方で、本委員会においても、鉄道の早期整備に対する期待の声を多くいただいていることから、委員会としての結論を早期に導く必要があると考える。そのため、県には早急に調査結果をまとめていただきたい。
- ・今後の委員会の進め方については、次回の検討委員会において、ルートの追加調査結果を事務局より説明いただいた上で、それに対する意見を委員の皆様から頂き、鉄道延伸案のルートや事業化など、空港アクセス整備の方向性について、改めて各委員から意見を頂きたいと考えている。

—（委員了承）—

（以上）